



梅田 利和(うめだとしかず)議員

一括質問

身近な行政手続きの窓口 郵便局

◆身近な行政手続きの窓口について

Q 小松市内の10郵便局での行政手続きの現状は。

A 平成30年9月に、市民対応の窓口業務に関する内容を含めた包括連携協定を市と市内郵便局の間で締結した。令和2年11月から市内10郵便局において行政窓口業務を委託している。委託している業務内容は2種類で、申請書取次業務と電子申請サービス支援業務である。

Q 身近な郵便局の今後の活用は。

A これまでも取次ぎできる業務や手続の拡大について郵便局と協議を進めてきたが、現在税関関係の2手続について追加に向けて準備中である。更に、郵便局でもマイナンバーカードの申請受付をできるよう協議を進めている。

◆「Nudge(ナッジ)」を活用したシティブロモーションについて

Q ナッジとは。

A 次世代型クレジットカード Nudgeは、ポイントの一部をユーザーがあらかじめ選択したスポーツチームやアーティスト、地

域等に対する寄付として還元できる仕組みを備えている。

Q 協定の内容は。

A 「FinTechを通じた地方創生の推進に関する協定」として、関係人口の創出や市民生活の充実に向けた施策を推進することを目的に2つの柱を設けている。1つには関連人口の創出とエンゲージメント向上に関することであり、Nudgeを活用したシティブロモーションを進めていきたい。2つには若年層の金融リテラシー向上に関することであり、ナッジ(株)の経験や見識を、ふるさとの高校生、大学生、社会人向けに、フィンテックや金融に関する研修会や情報発信等を図っていききたい。

Q 今後の期待する効果は。

A デジタル技術は、ビジネスや暮らしの様式や常識を大きく変える。前述した取組の有効性に加え、ナッジ(株)とのパートナーシップを築き、フィンテックの知見や技術を様々な分野から活用して市の活性化につなげたい。

※フィンテックとは、金融ファイナンスと技術(テクノロジー)を合わせた造語



二木 攻(ふたぎ おさむ)議員

一括質問

木場潟前川における遊覧船の運航について

Q 木場潟、前川(まえがわ)は、今江町で生まれ育った私にとって思い出の多い故郷です。木場潟と白山が一体となった眺望は、誰もが認める素晴らしいものだと思います。木場潟には、年間74万人もの人々が訪れます。美しい木場潟と前川を利用した環境を魅力アップし、地域の観光として活用し、活性化につなげるべきだと思えます。そのためには、遊覧船を運航し、眺望・舟遊を楽しむ企画が必要と思えます。

Q また前川の改修終了時にはぜひ運航を開始してもらいたい。

A 前川で遊覧船を運航するに当たっては、事業者の確保や河川管理者との協議、橋桁とのクリアランスの確認等が必要であり、また上流に向かって運航する際には船外機を使用しなければならぬ等の課題がある。

船外機を取り付けた場合であつても、安全統括管理者や運行管理者の資格を持つ人材の確保が必要となる。船頭にあつては、二級小型船舶操縦士船舶免許に加えて、乗客を乗せる小型船舶の船長としての特定操縦免許が必要となる。

市としては木場潟や前川での流し舟の運航は、自然環境を楽しむことができる観光資源として興味深いと考えている。

今後、実施に向けて新たな課題が生まれることも想定しながら、地元等と調整を行い、全国の事例などを参考に、課題解決を図り運航実施を目指していききたい。



白山・木場潟・前川の眺望



宮川 吉男(みやかわ よしお)議員

一括質問

既存の図書館を見直し活性化し グレートアップを

◆北部地区の活性化について

Q 地域の活性化、まちづくりに重要な国道305号白江交差点～長田町交差点迄の4車線化進捗は。

A 県事業として平成28年度から4車線化改良事業に着手し、現在地権者と用地補償の協議に取り組んでいる。

Q 梯川・鍋谷川・八丁川の改修事業の進捗は。

A 鍋谷川改修事業は千代町側が今年度末に120m完成し、残り150mとなる。八丁川改修事業は今年度末迄に長田町側約470m完成の見込み。

Q 野田町町内会より強い要望の公共下水道事業整備計画は。

A 高堂町完了後、令和7年度以降から整備を予定。

Q 米価格が2年続きで下落している。生産者の士気向上のため本市として国、JAへの支援要請は。

A 小松市産ブランド米の価値向上と消費拡大に向けた各種施策を行い、農業者の所得向上に努める。

Q 能美地区の発展、振興についてかたてから要望のコミュニティセンターと防災センターを併せた複合施設の計画は。

A この地域の皆様のより安全な避難の確保と能美小学校避難場所の安全性を高め防災機能の充実の必要性を進めていく。

◆昔城公園整備について

Q 更なる魅力ある公園整備として春夏秋冬季節感を感じ取る花の植樹と素晴らしい観光資源のPR及び発信を。

A 樹木の樹勢回復や保存を図り、花と緑が美しい風情のある魅力的な公園に改良していく予定。

Q 園児、高齢者、身障者に優しい通路整備を。

A 一部車椅子でも散策できるエリア、視点を設けている。事前申込みが必要であるが美術館・公会堂前は車が侵入できるよう配慮している。HP・SNS等で周知強化していく。

Q 現市立図書館は3カ所あり、特に公園内の図書館を市民よりアイデアを募り活性化及びグレートアップする考えは。

A 図書館協議会、市民アンケートを実施し利用促進をはじめ公園、文化施設と連携し提案を頂き魅力アップに努める。



橋本 米子(はしもと よねこ)議員

一括質問

原油価格の高騰への 対策について

◆来年度の予算編成に関し、原油価格の高騰への対策について

Q 生活困窮世帯や中小事業者への福祉灯油の助成を求めめる。

A 生活困窮世帯へは、市独自に追加予算の上程を予定、中小事業者へは国・県等の動向を踏まえ市独自の制度も検討したい。

◆小松市国民健康保険税について

Q 18歳未満の国保税均等割半額減免を来年度も継続実施を。

A 国等の状況を総合的に見極める必要がある。国保運営協議会の中で制度の継続についても協議していきたい。

Q 国保税滞納世帯へ「限度額適用認定証」の交付を求める。

A 厚労省の通知に基づき運用しており、今後は県内の状況も踏まえながら交付に向けて、関係機関と協議を進めていきたい。

◆小松市保育所統廃合、民営化の総括について

Q 保育所の統廃合、民営化の結果と公立こども園の特徴は。

A 平成17年度19施設から令和2年度5施設に減少、特徴として「社会全体で子どもを育てる」を

基本理念に教育・保育と子育て支援に臨むこととしている。

Q 30歳以下の保育士が少ないので計画的採用が必要と思う。

A 多様なニーズに対応できる支援やサービスのため、バランスの良い採用を計画していきたい。

Q 認定こども園「だいち」と「あおぞら」の老朽化建替計画は。

A 両施設とも老朽化しており、今後、新園舎の建設に向けて地域や保護者など関係者の方と協議を進めていきたい。

◆小松基地でのF-35A訓練について

Q 訓練の理由と市として騒音調査をどう対応されたのか。

A 移動訓練という通常訓練の環境のもので、調査については市内11か所で常時行っている騒音測定を実施している。



レギュラーガソリンと灯油 全国平均店頭価格の推移



木下 裕介(きのしたひろゆき)議員

一問一答

子ども支援の窓口一元化を！

◆行政サービスの一元化を

Q 0歳から18歳まで一貫して受け持つ部局を設け、乳幼児健診や子育て支援など切れ目なく見守りできる体制を整えてはどうか。

A 見守り・支援が必要な家庭については、市長部局と教育委員会が綿密に連携し、こども園と小学校との接続については、8月に幼保・小連絡研修会を開催し、接続に向けた取組の強化を図った。

◆新型コロナウイルス3回目接種

Q 管理が異なり、使用期限もあるファイザー・モデルナの2種類のワクチンをどう使っていくのか。

A 希望者には3回目接種時期に接種可能となるワクチンを検討して頂きたいと説明したい。

◆HPVワクチン接種について

Q 厚生労働省は11月、HPVワクチンの積極的勧奨を来年4月から再開することを決定した。本市の対応は。

A 国は接種券の発送前倒しも可能としており、実施に向け検

討していきたい。

Q 一方で現在もワクチン接種後の健康被害を訴えている方もいる。対象者の不安払拭に向けてどのように周知していくのか。

A HPVの活用や接種券にチラシを同封し、必要な情報が必要な人に確実に伝わるようにしたい。

◆市職員の働き方について

Q 残業時間の推移と休職者の状況は。また、休職者が職場復帰する前後にどのような支援を行っているのか。

A 上半期では令和元年度14・6時間、2年度11・9時間、3年度13・5時間。休職者は元年度が12人、2年度7人、3年度が9月末で7人。復帰前は試し出勤を行い、復帰後は保健師が丁寧な声掛けを行っている。

◆防災について

Q 防災安全センターに女性の正規職員を配置してはどうか。

A 防災担当部局の長は女性であり、政策立案もしている。



新田 寛之(にいたひろゆき)議員

一問一答

小松市奨学金貸与条例について

◆県外の大学でも良いか。

A 当該者もしくは当該者の保護者が本市に在住ということが条件となるため、保護者が小松市に住んでいれば対象となる。

◆所得制限はどうか、緩和も必要ではないか。

A 世帯全員の前年所得金額の合計額が生活保護基準の1.3倍までとしており、目安として4人家族で470万円程度となる。

◆修業中でも良いか、年齢制限はあるか。

A 進学予定の方、既に在学中の方でも条件を満たせば申請することは出来る。年齢制限は特にない。

◆貸与金額の途中変更は可能か。

A 年度途中では難しいが、各年度の新規申請時期に合わせた変更は可能。

◆留学や留年等による延長や、大学院進学等での貸与も考えてはどうか。

A 支給期間は卒業までに必要な修業期間が終わるまでとしており、留学、留年の場合はその期間

は休止扱いとなるが、帰国や進級により、再度貸与を受けることが出来る。大学院への進学は現行制度では対象としていない。

◆10年の返済期間は、もう少し長く設定すべき。

A 最高で総額240万円を10年で返済する場合、月々2万円となるが、やむを得ない事情等で返済困難となればその期間の返済を猶予することも出来る。

◆返済時期には結婚や出産、住居新築等のイベントが考えられる。1/2返済免除の条件緩和やメニューを幅広く設定してはどうか。

A 今後は社会ニーズや応募状況、学生等の声を聴きながら、利用しやすい制度となるよう、弾力的に運用していきたい。

◆3回目のワクチン接種に向けて

接種方法や集団接種会場は前回同様か。

A 前回と違うワクチンを接種する交互接種も認められるなど、これまでと異なる部分もあるため、集団接種の会場数や接種体制を含めて検討・協議を進めている。



吉村 範明(よしむらのりあき)議員

一問一答

伝統工芸九谷焼の 更なる発展に向けて

Q こまつクタンニ未来のカチ実行委員会がビジョンを作成した。九谷焼の日常使いについて、本市は九谷焼とどう向き合い今後、どう事業を進めるのか。

A 市全体の総合ビジョンでも九谷の素材を取り入れた内容を考え、新年度において具体的な施策を予算要求したい。

Q 九谷文化や技術を次の世代へ継承することは重要だ。支援策は。

A こまつの技継承支援奨励金制度により支援しており、これからも応援していく。

Q 伝統工芸と触れ合う教育機会の拡大について学校の授業は。

A 小学校4年生社会科で、伝統工芸を学ぶ単元がある。

Q 後継者育成のため、市立高校で専門に学ぶ授業やコース増設などを検討とあるが制度設計の内容と時期は。

A コース設定も含め教育活動自体を見直し生徒にとって価値のある高校を目指していく。

Q 金野小学校など教室を工房として整備し、期間を区切り貸し出すのは。

A セラボクタンニで貸工房を設置し、2人の若手作家の方が活動している。作家の方々が育つ環境を支援していきたい。

◆本市の食料自給率を上げる施策について

Q 稲作耕作者と生産コスト、米価の推移は。

A 市内で700人、平均年齢は68・1才。コストは一反当たり7万7,200円、販売収入は11万7,000円。一等米のコシヒカリ1俵当たり平成24年、1万3,700円、令和3年、1万600円である。

Q 米とそれ以外の流通と販路は。

A 主食用米はJAによる直接販売や海外へ出荷等している。トマト等の野菜は、JAに出荷後市場を経由し、消費者に届けられたり、直売所での販売もある。

Q 生産品を組み合わせるなどJAと協議し販路を拡大すべき。

A 地産地消の教育的意義も含め、来年度から現在週3回の米飯の回数を増やせないか調整している。



片山 瞬次郎(かたやましゅんじろう)議員

一問一答

わくわくする未来型図書館

◆図書館の利用状況について

Q 図書館の利用動向と小学校内図書室の貸出数は。

A 減少傾向で、スマホや電子書籍の普及拡大等も影響の一つと推測。小学校図書の出出は平成16年の35・5冊から令和元年度は約4倍の147・9冊である。

Q コミュニティの拠点としての図書館の重要性とエリア価値向上への所感は。

A 出合いの場や憩いの場としての役割は拡大している。図書館により周辺地域が好循環で潤う場所を選びたい。

Q 今後の図書館に求める役割は。

A 20年、30年後の未来を見据え、人づくり、地域づくりの拠点として進化していく事が大切である。

Q GIGAスクールのタブレットで「子ども電子図書館」の考えは。

A 紙と電子の両立も重要で、将来的な課題も含め検討していく。

◆貸与型奨学金制度について

Q 給付型の奨学金ではなく、貸与に至った理由は。

A 本市は「学習意欲があり、経済的理由で修学が困難な学生」を対象とした。給付型は日本学生支援機構などで「成績も格段に優秀な学生」を対象としている制度がある。

Q 「経済的理由による修学が困難」の要件を広げる考えは。

A まずは運用し、多くの学生が利用しやすい制度に見直しながら弾力的に運用していきたい。

◆日本遺産サミットin小松から

Q 文化観光戦略と日本遺産サミットの成果は。

A 全国から92の日本遺産団体が集い、全国各地に魅力を発信した成果は大きい。

Q GEMBAプロジェクトを通じて、小松の魅力を活かすには。

A 今回の取組をモデルに、産業観光、日本遺産の歴史文化ストーリーを融合させた企画を磨き上げたい。



日本遺産サミット in 小松